

南高の文化祭、行かん?

2010[平成22]年度 テーマ

みんな、おかえり。

～あの場所へ、あの日の続きへ～

旭陵倶楽部

第20号

発行責任者／林 芳正

編集長／田中敬士

編集委員／泉原雅人、

西田浩義、廣瀬千春

発行日／2010年6月24日

共通一次、
何点やった?

俺、赤点が
3つもあったど

駅の水族館で
2時ね

ほしたら、すいずにおるけえ

ねえ、拓郎のLP
貸して〜ね♡

あの……
好きなんっちゃ…

風師山って
門司やんか

西高体操って変やのう

～写真で見る東駅今昔物語～

「西高まで徒歩5分」だけは変わらない。
(あ、違った。年をとるともっとかかる)



この道は
いつか来た道。

●表紙/P.2
絵 鈴木達也
構成・文 田中敬士

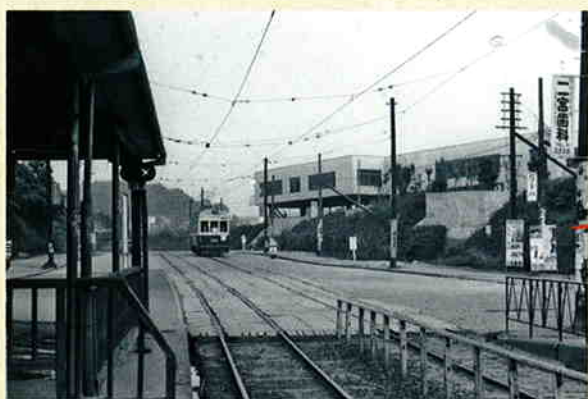


懐かしい路面電車時代の東駅。
右に駅舎が、左手奥に電車の車庫があります。
左には山陽電軌のバス駐車場も。

(1962年6月17日 大野 鐵 撮影)



左の写真の右側へ伸びて行くのは、
ほら、見慣れたこの道です。



電車のプラットフォームから
山の口方向を見たものです。
(1962年6月17日 大野 鐵 撮影)



左の写真とほぼ同じアングルで撮った
現在の風景。

・目次・

| | |
|---------------|------|
| ご挨拶 | P.3 |
| メッセージ | P.4 |
| 新旧幹事メッセージ | P.5 |
| 恩師からの便り | P.6 |
| 支部便り | P.7 |
| 旭陵フォーラムのご報告 | P.8 |
| 海の向こうから | P.12 |
| クラブ紹介 | P.14 |
| 旭陵ゴルフクラブ | P.16 |
| 東京支部便り | P.19 |
| 支部総会のご案内・下関名産 | P.20 |



坂の上で偶然見かけた某高校。
校庭から風師山が見えるらしい。



こちらはご主人が西高卒業とのこと。
どこから見ても東駅だろうという
背景に収まっていたきました。



「ちょうど高校の頃に学制が変わったので、
私は入学は西高、卒業は南高なのよ」と奥様。
ご主人は「僕は違うけど息子は西高出るとよ」

冒頭に「東駅」という地名の成り立ちが普通名詞に方位だけ。実にブレンカつ機能な「固有名称」だ。「北ホテル」という古いフランス映画があるが、「東駅」って、筆者は勝手にヨーロッパの地名みたいだと思ってる。こういう地名はワルシャワあたりに多い(あの、すこしい加減なこと言ってますよ)。そんな東駅の名称に、図らずとも醸し出されたモダンな都市感覚や由緒ありげな雰囲気を感じてしまふのは筆者だけだろうか。悔ることなかれ東駅、我が青春の最寄り駅。

さらに東奔し、西走しよう。東に行けば郷土の英雄・高杉晋作(号は東行)。西に行けば出家して旅に生きた歌人・西行。東方見聞録に西遊記。西方浄土に東方神起。收拾がつかなくなってくるが、ともあれ、方位にかかわる言葉に思いを巡らすのも一興である。さて、東駅だ。西高があり、南高があつて、なぜ東駅。それにどこを電車が走っているのかとツツコミどころは満載だが、前者の理由は、この地で地磁気が異様な変化を見せているからにはかならない(嘘)。後者の由来はもちろん、下関に路面電車が走っていた頃の名残りである。市内を走る路面電車を追いかけて走ったことのある世代は、昭和30年代後半生まれまでであろう。

地方都市の名に方位がついただけの名を持つ高校が、甲子園や国立、花園に出てくると、つい鼻屑にしてみよう。出身校のせい。方位を示す語は、それとなくある性格を持つ。北と南は、誰もが抱く寒暖のイメージゆえにわかりやすい。北は最果て、南は楽園。しかし、東と西はなかなか一筋縄ではない。

方位について



旭陵同窓会東京支部長

倉重英樹 (第38期生、1961年卒)



知識社会と同窓会

旭陵同窓会東京支部の会員の皆様にはお元気にお過ごしのことと存じます。

21世紀になって10年、あのP.ドラッカーが「誰も知らない世界—知識社会—がやってくる。」と言ったように、一層のグローバル化と共に新しい世界が、我々の常識を超えた世界がそのベールを少しずつ剥がしているようです。人々はこの変化にワクワクしたり、ストレスを感じたりしながら、モノやカネから少し離れ、心の世界を大切に始めたようです。ビジネスの世界でも「モチベーション3.0」(ワクワク感による自発的動機)が提唱され、やるべきことを実行して成功するには「情熱」「人への誠実な関心」「原則」の必要性が強調されるようになりました。富や名声や尊敬やワクワク感のある仕事の機会や愛さえも「他の人」から与えられるのであり、成功は「他の人」を説得して得られるものです。サービスの分野では教えてくれる人より一緒に山に登ってくれる人が求められるようになりました。金融資本主義の時代には金融機関が必要でしたが、知識社会では知識機関が必要のように思います。この役割を果たすのがインターネットを介した「人のネットワーク」ではないでしょうか。故郷下関で青春時代を過ごし、関中／西高のDNAが育んだ仲間こそ大きな広がりを持ったネットワークです。

この視点から、旭陵同窓会東京支部も郷愁をシェアしながらも、絆を深め知を交換することにより、先輩が後輩を育てることができたら素晴らしいと副支部長や第56期生の幹事団の皆さんと熱く語り合っています。

7月24日(土)には、旭陵同窓会東京支部総会・懇親会が昨年に続き東京プリンスホテルで開催されます。是非ともお誘いあわせの上多くの方々にご出席いただき、心のふれあい、知の交換など大いに楽しんでいただきたくお願いいたします。

旭陵同窓会会長

木下 毅 (第37期生、1960年卒)



仲間たち

平成二十二年度旭陵同窓会東京支部総会が盛大に開催されます事を心からお慶び申し上げます。昨年度の90周年行事で3月1日の下関西高卒業式に新しい校旗と応援旗を送りました。皆様から多くの寄付をいただきありがとうございました。

旭陵同窓会長になって丸一年たちました。各支部の総会に出席させていただきました。どの支部総会も多くの人が集まりなごやかな楽しい会でした。なかでも東京支部総会には300人以上集まり、催し物も同窓生という事でその力強さを感じました。又若い人の参加が多く、同窓会の良さを感じました。今年のテーマは実にうまいネーミングだと思います。林芳正代表幹事始め56期生の皆様のセンスに感心しています。当日を楽しみにしています。

会長になると3月1日の西高卒業式で祝辞をのべなければならず、卒業生、在校生、保護者の前で話すのですが、若い人ばかりなのでとまどいもありました。

そこで話した日本医師会が主催している「心に残る医療体験記コンクール」で厚生労働大臣賞をもらった「心に残る言葉」の一部を紹介いたします。新人の高校の先生と新人看護師さんの話です。先生の受け持ち生徒が入院していました。ある日いつも笑顔の受け持ちの新人ナースが「この生徒さんが私のフォローが悪いせいか、今日は一言も口を利いてくれません。」といいました。そこで高校の先生は「あなたはよく頑張っていますよ。私も日々失敗だらけです。」と励ましました。するとナースは「確かにそうですね。まだ1年目なのですから。きっとこれから熟練したベテランナースになると思います。でも、今の私の患者さんには今しかないんです。私はこれから何度でもやり直しができるけど、未熟な私が受け持った患者さんたちは、私が未熟だった時をやり直すことはできないんです。1年目だろうと10年目だろうと、そんなこと患者さんたちには関係ないんですよ。」



平成22年度
旭陵同窓会東京支部総会
総会の盛会を祈る！！
旭陵東京38期生一同



平成22年度
旭陵同窓会東京支部総会
開催おめでとうございます
旭陵同窓会
会長 木下 毅 (第37期生)

伊藤内科医院

内科・循環器科・呼吸器科・胃腸科

院長 **伊藤 肇** (33期)

下関市稗田北町 13-36 Tel : 083-253-2040

JCS

Japan Computer Services Inc.
www.japacom.co.jp

株式会社

ジャパンコンピューターサービス

代表取締役

吉川 順一 (42期)

山口県立下関西高等学校校長

木村峰康



新しい時代へ向けて

旭陵同窓会東京支部の平成22年度総会の盛大な開催、誠におめでとうございます。

平素は多大なご指導ご支援を賜っており、厚くお礼申し上げます。また、後輩達に示唆に富む御講演をいただくなど感謝申し上げます。昨年は、母校90周年の節目の年に当たり、同窓会の皆様からは老朽化した校旗を新調していただきました。ステージに飾られた立派な校旗を前にしてこの3月の卒業生を送り出すことが出来ました。卒業生はきっと皆様方のお気持ちを十分感じ取って巣立ったものと信じています。

また、PTAもこの節目の年に記念事業を展開され、歌手の沢田知可子さんのコンサートが開催されました。生徒保護者関係各位1200名の感動溢れるものとなりました。旭陵教育会からもご支援を賜るなど皆様の熱い思いの寄せられた年となりました。

学校の教育活動においては新型インフルエンザの様々な影響が有りました。本校唯一の国際交流の機会となっているシンガポールヤングサミットの突然の中止、11月からの度重なる学年閉鎖や学級閉鎖、修学旅行の2ヶ月延期等と大きな支障もありましたが、生徒達は良くこれを乗り越え、これまでどおり実績を残しました。

陸上部の山田君は400mHでインターハイ5位、国体4位と活躍、囲碁部の河野君は山口県チーム3名に選ばれ団体で全国優勝に貢献しました。進学実績においても国立医学部5名を始めここ数年の高い進学実績を維持することが出来ました。

学校は今、単位制への移行過程にあり、進路希望に応じたきめ細かい科目選択ができるようにし、空調設備も理科棟まで拡充を計画しています。

今後とも皆様方にもエールが送れるよう、学校運営を推進してまいりたいと思いますので、これからも変わらぬご支援の程よろしくお願い申し上げます。

旭陵同窓会幹事長

藤本正三 (第35期生、1958年卒)



東京支部総会に寄せて

東京支部総会が盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げますとともに当番幹事の皆様のご尽力に感謝致します。

今年も昨年に続き悲報をお伝えしなければなりません。去る3月7日、本会副会長井上淑博氏が突然の病に倒れられ、あっという間もなく他界されました。氏は平成11年に副会長に就任され、以来11年間にわたり本会の発展に尽くされ、その功績は顕著なものでありました。又氏は僧職の傍ら保護司として永年社会に奉仕され、昨年春には瑞宝双光章を授章され皇居にて天皇陛下に拝謁されたばかりで、本会の名誉なことで喜んだばかりで残念でなりません。氏のご冥福を心よりお祈り致します。

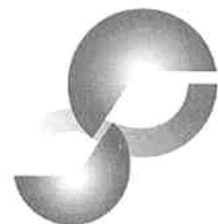
次いで本会の報告を申し上げますと昨年は母校創立90周年に当たり母校に校旗を贈呈する事業を行いました。各支部を訪問する度に資金カンパをお願いし、東京支部でも多くの資金を頂きました。おかげをもちまして初期の目的を達成することが出来、又応援旗2旒も贈ることが出来ました。2月27日に贈呈式を行い3月1日の卒業式に披露することが出来ました。ありがとうございました。

又母校において、6月5日に東京支部長・倉重英樹氏をお招きし文化講演会を開催し生徒諸君に感銘を与えて頂きました。今年は37期生の九州女子大教授・中村重太氏による「ヒトの学びの姿」と題して講演を頂きました。これからも毎年講演会は続けていきますので、自薦、他薦大いに手を挙げて頂きたくお願い致します。

尚9年後は創立100周年となりますので100周年記念事業に取り組んで参りますので力強いご支援ご協力をお願い致します。

株式会社サンノア・トラスト

取締役会長 亀山征夫 (37期)



SUN NOAH

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-5 新宿 KM ビル 202

tel.03-5379-1731

fax.03-5379-1732

<http://www.sunnoah-trust.co.jp>

2009(平成21)年度当番幹事代表

長山恒正 (第55期生、1978年卒)



感謝と「絆」

旭陵同窓会会員の皆様、昨年の当番幹事、55期の活動に多大なご支援、ご協力を頂戴し、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えのお陰をもちまして、総会は300人を超えるたくさんの同窓の方々に参加いただき盛会のうちに終了、無事幹事の重任を全うすることができました。重ねて厚く御礼申し上げます。

また、この場を借りて、最後まで全力で頑張ってくれた55期の同期の優秀な仲間へ改めて賞賛と感謝の想いを伝えたいと思います。

私達は「絆」をテーマに準備を進めてまいりました。同じ同窓でも、年齢を超えた「絆」、山口県、下関市といった地元地域の「絆」、企業やゴルフを通じた「絆」、これらを少しずつつむぎながら会報を編集し、総会・懇親会を開催させていただきました。幹事としての活動を通じて、微力ながら、旭陵同窓会に新たな「絆」を生むお手伝いできたのかなと思っています。また、私自身、幹事活動の中で、下関西高校卒業生としての誇りや志が甦ったような気がします。

私は、一般消費財を製造、販売するメーカーに勤務しております。日々、お客さまに購入いただく商品ですが、この世界でも、お客さまとの「絆」の質をいかに高め、いかに強くするかが大きな課題です。この課題の解決には近道はないと思っています。マーケティングや営業活動などを通じて、お客さまとの信頼という「絆」を深め、新しく築いていくに他なりません。私事でも、仕事でも、「絆」は、時間をかけて大切に築くものだと思います。

日本の社会は、かつてないほど人間関係が希薄な時代を迎えたといわれています。「絆」や「縁」というものが弱くなり、支えあう社会、助け合う社会が崩壊しつつあると言われてます。かくいう私も、核家族で、これまで、仕事に終始した人生を送ってきました。故郷である下関を離れ、再び故郷で暮らすこともなく、あまりにぎやかとはいえない老後を過ごすかもしれません。それだけに、今ある「絆」、これからできる「絆」は大切にしていきたいと思っています。

同窓生は、常に近くにいるわけではありません。利害を共にすることもあまりないと思います。でも、仕事の仲間以上に心強い仲間です。特に高校時代の友人は思春期という多感な時間を同じ環境で育ったこともあり、人生の拠り所となるような生涯の友もいるのではないのでしょうか。時には、仕事のうえでも、大切なパートナーや支援者になることもあるでしょう。いずれにせよ、同窓の「絆」が、人生を豊かにすることの一助になることは間違いないと確信しております。

旭陵同窓会の多くの先輩方から、この幹事をきっかけに、同期の集まりが活発になったと聞きしました。50歳という節目での大役がきっかけとなり、私達もそうなれば素晴らしいことだと思います。

最後になりますが、私達55期は56期にバトンタッチし、今、56期の後輩諸子が総会に向けて奮闘しています。新しい「絆」が一つでも多く生まれ、旭陵同窓会が益々発展するためにも、56期の幹事の皆さんへのご支援を何卒よろしくお願いいたします。

2010(平成22)年度当番幹事代表

林 芳正 (第56期生、1979年卒)



東京支部総会に寄せて

去年の東京支部総会からあっという間の一年が過ぎようとしております。準備が万全に整ったか否かは総会が終わるまでわかりませんが、少なくともこの一年間同窓会活動(同活)を十分満喫出来たことを同窓会の皆様、中でも同期のみんなに感謝したいと思います。

下関の本部の幹事を担当したのが33歳の時でした。職場でのポジション、卒業してから年数、などなど17年の違いをしみじみ感じております。今年のテーマは「みんな、おかえり」、企画も、歴代体育祭の写真、など、33歳の幹事では、出てこないアイデアのように思います。50歳という節目の年を迎える年頃になって、素直にあの頃を懐かしみ、そして一緒にすごした同期とその懐かしさと絆を再確認し、そしてその絆を縦に共有する先輩後輩の皆さんとの出会いが広がっていく、このことを再確認できたことは大きな収穫でした。

今年は、新しい試みとして同窓会の行事としての講演会を行いました。「価値創造」というテーマは、どんな仕事をしていても関係することだと思います。右肩上がりの、大量生産・大量消費の時代から、成熟した価値創造の時代への大きな流れの中で、天下第一関に集った我々がいったい何をなすべきなのか、何がなせるのか。普段忙しさにかまけてあまり考えることがないことをじっくり考えるための大変有意義な時間を共有できたのではないのでしょうか。

自らが身をおく政界はまさに激動の中にありますが、初心を貫徹し、折れそうになる心をしっかりと支えるための大きなエネルギーをこの絆から注入してもらえ喜びを感じながら、一歩ずつ前進していきたいと思っています。

LARSON・JUHL

額縁と絵画のご用命は
ラーソン・ジュール・ニッポン株式会社

代表取締役 **大河原 泰介** (37期)

本社 / 〒108-0074 東京都港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル
TEL 03(5421)2061 FAX 03(5421)2136
URL <http://www.larson-juhl.co.jp>



西田 昇

(社会)
昭和43年4月～
昭和58年3月

56期 「昭和54年」 の思い出

旭陵同窓会東京支部総会の開催心からお慶び申し上げます。56期生と過ごした一年間は、「対外模試」「進学・進学」の西高体制でしたが、私はかたくなにクラスの「団結」を訴えて、青春を謳歌してきました。卒業アルバムにも小金治の旗が大きく掲載されています。21世紀を迎えたら、この旗の下で集う約束もしました。思い出の数だけ宝物があることは、教師冥利に尽きます。偏差値で測れない大切なものを生徒と共に求めた、実に充実した一年間でした。

昭和54年のいま一つの思い出は、下関西高創立60周年記念史の編集委員として、仕事をさせていただいたことです。編集に当たって、「山口県立下関西高等学校、将来の飛躍発展に資する内容にしたい」との心構えを述べられた上田孝治校長の言

葉が今でも脳裏からはなれません。60年の足跡はどうてい一冊の記念誌で語りつくせるものではありませんが、先輩諸賢の、輝かしい足跡を回顧することができました。56期生が学んだ、大時計のある校舎が新築されたのは、昭和5年ということも知りました。その際、三箇条が書かれた記念の絵はがきも見つけました。

一自ラ学ビ自ラ治メ自ラ重ズベシ
一心身ヲ練リ識見ヲ養ヒ正善ヲ行ウベシ
一大義ヲ明ラカニシ四恩ニ報ズベシ

簡潔明瞭に、教育における「不易」の部分が述べられていると思います。教師生活後半の、19年を大過なく過ごすことが出来たのも、西高で15年間、汗を出させていただいたおかげであると思っています。



篠川展裕

(数学)
昭和47年4月～
平成元年3月
(分校4年、本校13年)

出会い

56期の皆さんが卒業してから31年、早いものです。私が分校(現在の響高校)から本校(西高)に異動したときに皆さんと出会いました。1年生の担任、数学Iの授業担当、校務分掌は「生徒指導」としての出発でした。部活動は野球部の副顧問、下手なノックで野球部の生徒達に大変迷惑をかけました。旧下関球場で試合前の外野ノックを任せられ、空振りの連続でスタンドからの声援(?)を受けたことを憶えています。正課クラブでは予算がないから経費のかからないものをということで、「詩吟クラブ」を生徒3名が発足したこと。修学旅行は「物見遊山」的なものはやめて、新しいものをと検討を始めたときで、クラス単位、公共機関利用(宿泊施設、移動手段等)の修学旅行を。結果として、私のクラス(副担任 宮崎先生)は有田・唐津方面(一部は柳川)の窯元巡り、他のクラスは中国・四国方面のコースだったと思います。有田の窯元「對山窯」で絵付けをした湯呑、小皿が思い出の品としてあります。

体育祭・文化祭・クラスマッチ等思い出は尽きませんが、皆さんが、古い校舎で、雨にも負けず風にも負

けず時には拳骨にも負けず、授業等の学習活動、また学校行事に真面目に取り組まれていたことを、懐かしく思い出します。今思えば、私も若く、皆さんの若さに負けずに頑張れた時代だったと思います。分校(4年)、本校(13年)と17年、教員生活の半分近くを西高で過ごせたことを誇りに思っています。

西高から西市高(5年)、下関工業高定時制(1年)、岩国商業高(2年)、熊毛北高(3年)、長府高(3年)と、小刻みに転勤をし、長府高で停年退職しました。

退職したら「料理学校に」と思っていたが、周囲の勧めもあり、放送大学山口学習センターに教務主幹を3年、これで「料理学校」と思っていましたら、梅光学院(当時、事務局長が中尾先生)から話があり、断れずに梅光女学院高等学校に、5年目になります。週13時間の授業で孫のような生徒達に「若さ」をもらい、頑張っています。下関に居を構える中で、西高時代の先生達、卒業生との出会いが結構あるものです。人と人との出会いのおもしろさ、ありがたさを感じるこの頃です。



佐藤太助

(体育)
昭和49年4月～
昭和57年3月

我が人生に おける馬関の 思い出

魚市から馬関は明けて
山船・入船・宝船
粋な葉っ葉服 自慢じゃないが……
下関漁港節の一節だと記憶している(記録ではない)が定かではない。

現在、岩国市在住ですが、時折口遊ぶ事がある程、私の脳裏を駆け巡るのです。

下関西高に赴任し、最初に驚いたのは、天下第一関を校訓に掲げる進学校といわれる所での生徒の学生生活が、真に受験一辺倒に染まっているやに思えた事。放課後の部活動を見ると日替り定食ならぬ日替り部員による活動、実態は、生徒の多くは、勤勉努力型というのでしょうか、学校の授業終了後、再び学習意欲に駆り立てられるのか(?)塾へと向かう光景……流石下関西高だと痛感しました。

併し、内情は違った一面があり、それは、夏休み中に鉄棒と水泳の補習授業が展開される事。鉄棒については、逆上がり、前回り、蹴上がり等、水泳では、四面を海に囲まれる日本、特に下関は海峡の町であ

る故、全員泳げるようにと。何か解るようで解らないような不可思議な感じを持ちつつ、頼もしさと、やんちゃの両面も持ち合わせる生徒とのつきあいが始まり、延々8年間も過ごさせて貰いました。

前述しましたが、部活動は自由なのか自主的なのか、どこか何かが私の考えるものとは隔たりがあり、天下の名門進学校、文武両道……若き私の闘志にめらめらと燃えるものを感じずにはいられなかった。

故に下関西高を、部活動でも生徒と共に何とか全国へと夢を馳せ、日々精進をしたのですが……現実と夢のギャップは非常に大きかったと痛感した事でした。併し将来に期待できる逸材を前にすると又、心がうずき始める青春(?)の思い出でした。

何はともあれ、多くの素晴らしい仲間と光り輝く未来の数多くの星(スターかな?)と共に歩めた8年間の楽しい日々であった事に感謝し、自らを励まし続け健康で爽やかな人生を送りたいと願うと共に、旭陵同窓の皆様方に益々の栄光を期待したいと願っています。



旭陵同窓会福岡支部 事務局長

井上正志 (第44期生、1967年卒)

平成22年2月28日(日)に平成21年度の福岡支部総会・懇親会を開催しました。

旭陵同窓会・木下毅会長、下関西高等学校・木村峰康校長、旭陵同窓会・藤本正三幹事長を下関から迎え、また、松村正剛(昭和47年卒)下関市議会議員、香川昌則(昭和57年卒)元下関市議会議員(平成21年3月に下関市長選挙に立候補)のお二人が下関からご参加下さいました。総勢46名の同窓生が集う会となりました。

今回も、昭和47年卒業の萬代徹・昭和48年卒業の阿武寿志・昭和52年卒業の藤川行平・昭和57年卒の小林智が中核となり企画してくれました。特に、昭和48年卒の阿武寿志とその同期生、森岡隆人・田尻均・島村易・長安健峰・下田隆久・松雪

友明の各氏が中心となって活動してくれました。

総会の前に、ここ数年の間でご逝去された福岡支部会員、山本晋(昭和2年卒)・石黒徳重(昭和14年卒)・浜口久明(昭和16年卒)・松野幹太郎(昭和16年卒)・杉直彦(昭和17年卒)・角木(清田)武司(昭和18年卒)・横井良嗣(昭和21年卒)・櫃本恵(昭和25年卒)・荒井良一(昭和28年卒)・安東義介(昭和30年卒)・森永英一(昭和31年卒)・末森博(昭和33年卒)・為近圓久(昭和41年卒)及び昨年亡くなられた旭陵同窓会片野良平副会長のご冥福を祈り、全員で黙祷を捧げました。

昨年9月に逝去された安東支部長に替わり、高本 副支部長が残期間を支部長として活動されておられました。今回の総会で、支部役員を新たに選任し、和田清 支部長・福嶋恒彦 副支部長(留任)・安藝初美 副支部長・植田正男 副支部長・井上正志 事務局長(留任)の体制になりました。会計監査は上田坦(留任)・藤川行平の2人体制、会計は達見清隆(留任)です。また、鈴島弘 元支部長、高本(大関)元子 前支部長のお二人に顧問となっていただきました。

懇親会では、高校時代にブラスバンドで活躍した萬代徹(昭和47年卒)がトランペットソロを演じ、筑田昌伸(昭和63年卒)・北川智康(平成4年卒)・中島望(平成8年卒)の3名が企画した名前ビンゴゲーム(参加者の名前を使ったビンゴゲーム)で、高本 前支部長から提供された景品獲得に向けてバトルがくり広げられました。



平成22年度
旭陵同 会東京支部総会
総会の盛会を祈る！！

第47期一同

祝

平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会

総会の成功を祈念いたします

宇部興産グループ旭陵会 有志一同

宇部興産・宇部マテリアルズ・宇部興産ホイール

宇部興産海運・宇部興産機械

宇部三菱セメント・ユー・イー・エル



価値創造のコラボレーションを求めて—— 旭陵フォーラムを盛大に開催。

2010年5月30日(日)、東京都千代田区・星陵会館ホールにおいて、旭陵同窓会東京支部では初の試みとなる旭陵フォーラムを開催いたしました。世代を超えた多くの同窓生との交流を深めるとともに、知的好奇心をおおいに満足させる、大変意義のある催しとなりました。



■第1部 基調講演「価値創造のプラットフォーム」

旭陵同窓会東京支部長 倉重英樹氏

ワクワク感が生む 高いパフォーマンス

ナレッジワーカーが中心となり、プロフェッショナルが生き残るといふドラッカーの言葉「知識社会」を引き合いに出され、基調講演を始めた倉重氏。現在のグローバル化の進展には市場拡大というメリットもある反面、競争が激化する面もあること、そしてビジネスにおける価値観もモノを作る側の付加価値から、買う側の問題解決価値に比重を移していることを指摘されました。

「働くことがサバイバルやお金・名誉の獲得を目指すのではなく、いま提唱されているのは、“モチベーション3.0”です。これは人から与えられるのではなく、自ら湧き出るモチベーション。ワクワク感を持ち、世の中のために役立つことが知的興奮や人間としての成長をもたらし、最も高いパフォーマンスを生み出します」

ICT業界、コンサルティング業界を変革し続けた経営者としての豊富な経験から、倉重氏のお話は続きました。

「従業員は働くことで自己実現できるプロフェッショナルになるべきです。従来のビジネスモデルでは対応できない新たな価値創造のモデルが必要で、そのためには課題把握力と課題解決力が求められます。また、人は財であるとの考え方から、私は“人財”と言っていますが、その人財の能力を最大限に生かす新たなプラットフォームが必要です」

「楽しい」ということはすべての源泉

「やるべきことをなくし、やりたいことをやる。そのためには、企画提案をし、コラボレーションを活発にする環境をつくれれば



倉重英樹
(くらしげ ひでき)

38期生。1993年日本IBM副社長、同年PwCコンサルティング代表取締役後、日本テレコム社長などを経て、2007年よりRHJインターナショナル・ジャパン会長(現職)。2008年シグマックス代表取締役CEOに就任。早稲田大学政経学部卒。

よいでしょう。コラボレーションとは、目標を共有し、活動を同期し、結果を共有すること。現在のネットワーク環境を使えば、より多くの人々の知見によるコラボレーションも可能になります」

そして、ご自身が経営するコンサルティング会社・シグマックスの実例をまじえつつ、次の言葉で基調講演を終えられました。

「ネゴシエーションは妥協点探しに時間とエネルギーを費やすために疲れます。つまり疲労創造であるのに対し、コラボレーションは価値創造ですから楽しい。楽しいということはすべての源泉です。経営者や国政をあずかる人にも楽しさづくり」

■第2部 パネル・ディスカッション

倉重英樹氏／戒崎俊一氏／貞包みゆき氏／林 芳正氏

モチベーションを高めていくために

続く第2部では、倉重氏から提示されたさまざまなキーワードをめぐって、パネラーの皆さんによる意見交換が活発に展開されました。まず口火を切ったのは戒崎氏。

「私たち科学者は、知識の生産者として知識社会の主人公であると考えています。科学者は、自分のモチベーションで積極的にアプローチしてゆくの本来の姿です。また、科学者は人と違うことを考える職業であり、どんどん新しいことに挑戦してゆかねばなりません。ところが、今は流行に乗るだけであまり自分で考えない「科学者」が増えている、いわば「科学者の科学離れ」が起きています。常識にとらわれず、自分自身で考える、人が言っていることをいちいち検証してゆくことからイノベーションは始まります。そういう意味で「自立」が必要ですね」



戒崎俊一
(えびすざき としかず)

54期生。理化学研究所 戒崎計算宇宙物理研究室 主任研究員。研究分野は、宇宙物理学、計算科学、銀河や星団などのシミュレーションを行うためのスーパーコンピュータを開発。宇宙ステーションから最高エネルギー宇宙線を検出する国際プロジェクトのリーダーを務める。東京大学大学院卒、理学博士。

麴町総合法律事務所

弁護士 竹内 俊文 (41期)

〒102-0084 東京都千代田区二番町 11-10
麴町山王マンション 606号室
電話 (03) 3288-0481(代)
FAX (03) 3288-0480

特許業務法人

第一国際特許事務所

代表社員 西川 正俊 (43期)
弁理士

〒108-0014
東京都港区芝4丁目10-5 ダヴィンチ田町4階
電話 (03) 5476-7300
FAX (03) 5476-7301



貞包みゆき

(さだかね みゆき)

66年生。日本航空フライトアテンダント、NHK北九州局アナウンサーを経てフリーに。ホリプロ所属。現在、アナウンサー、タレント、俳優として活躍。在校中はサッカー部マネージャー。早稲田大学人間科学卒、国際教育学修士。今夏公開「踊る大捜査線」出演。

続いて貞包氏が、西高時代を振り返りつつ話を進めました。

「モチベーションといえば、私にはいろんなことをフリーランスの立場で伝えたいという希望がありました。大学卒業後、3年で辞めると決めて日本航空に勤めました。そこでさまざまな世界を見聞きし、その体験をNHKにプレゼンテーションし、アナウンサーとして採用されました。その後、最初のプラン通りフリーになることができたのですが、最近感じるのは、フリーには自分に向けられた批判にも耐えられるメンタリティも必要だということ

です。フリーは自分自身が言わば会社であるわけですから」

コーディネーターの林氏は、ディスカッションの舵を取りつつも、政治家ならではの意見を述べました。

「『官』の世界は収益や付加価値という概念を持ちにくい。私は民間企業(三井物産)を経験した後に政治の世界に入ったので、そのあたりが違うなと感じ、政治の分野での価値創造とは一体何だろうかと、ずっと問題意識を持っていました。倉重氏のモチベーションを高め、自分の能力を高めていくことは楽しいものだというお話は、官の世界でも、成長戦略や経済政策など、役所や部署によっては当てはまりそうですね。また、いろんな役所とコラボレートすることがまた大切で、競争の中にいかにコラボレーションをまじえていくか。例えば与党と野党にしても、今の体制の中でコラボレートするべきところはすることが必要だと感じます」

ダイバーシティ(多様性)の大切さ

討論はさらに、画一性と多様性の話題を巡って、まず倉重氏。

「画一性のマネジメントというのは、本来日本人が得意とし、成功していた部分です。しかし、創造性という意味では弱い。インベーションはダイバーシティ(多様性)から生まれます。ですから、

ダイバーシティにチャレンジし、現状を思い切って壊すことも大切です。なかでも行政の世界がダイバーシティとは一番縁遠いのではないのでしょうか」

また、IBMを辞めて経営者になったご自身の経験、そして高校時代から自分でキャリアプランを描いていた貞包氏に触れて、

「若い頃からキャリアプランを設計するのは、とても大事なことです。予測が難しく、何が正しいかわからない時代にあっては、自分がやりたいこと、信じたことを見つけてやるのが大切です」

戎崎氏は、「日本人もダイバーシティは高いと思います。後はそれをどう生かすか。一流の研究者になっている方に聞いてみると、小学校時代はみんな問題児だった。私は「醜いあひろの子」状態だと言っています。ダイバーシティを生み出してゆくはずの人材を系統的につぶしているのが、今の日本の教育の問題だと思います」

さらに林氏も、国会は動物園みたいなものでダイバーシティには溢れていると笑いをとりつつ、教育についての話を続けました。

「留学時代、ディベートで議論を尽くした後、教授から一つの解答はないのだと知らされたときにはカルチャーショックを受けました。均一性を目指す日本の教育に弊害があるのは事実でしょうね」

貞包氏も、教育の問題、さらに会場から出たメディアはなぜどこも同じ情報を流すのかという質問を受け、「もっと個性を安心して打ち出せる世の中になればいい」との思いを語りました。

最後に倉重氏が次の言葉で締めくくって、盛り上がったパネル・ディスカッションもいよいよ終わりを迎えました。

「音楽の『楽』という字は、『ラク』とも『楽しい』とも読めます。それは二者択一であって、ラクを選べば楽しくない。楽しさを選べばラクではない。自分の人生でそのどちらを選ぶかは大事な決断のポイントになります。私の場合は楽しい方がいい。苦勞をしながらやりたいことを実現するのが本当の楽しさではないかと思ひます」



コーディネーター

林 芳正

(はやし よしまさ)

56年生。1994年ハーバード大学ケネディ行政大学院修了。95年参院選初当選。08年防衛大臣。09年内閣府特命担当大臣を歴任。外交安保、財政金融など幅広い政策通。現参議院自民党政務会長。議員バンドGinnz結成。東京大学法学部卒。

リフォーム・管工事・排水管洗浄なら

〒143-0014 東京都大田区大森中1丁目6番11号



中津産業株式会社

TEL 03-3768-2457

FAX 03-5471-3553

賃貸管理・建物管理・不動産仲介・損害保険なら

カナツソコミュニティ株式会社

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-1-11



TEL 03-6206-2892

FAX 03-6206-2893

<http://www.kanats.co.jp>

祝 平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会

『みんな、おかえり。—あの場所へ、あの日の続きへ。』

56期 弓崎 研一

祝 平成22年度旭陵同窓会東京支部総会

100年をつくる会社

in 鹿島

鹿島建設株式会社

旭陵同窓生有志

イズミ「ゆめシティ」が新下関に誕生

鹿島 設計・施工の県下最大級商業施設



| | |
|---------|-------|
| 郷 健一郎 | (44期) |
| 吉 秋 真 | (46期) |
| 浅 村 忠文 | (52期) |
| 乙 藤 寛治 | (52期) |
| 坂 本 忠己 | (52期) |
| 栗 田 秀樹 | (56期) |
| 田 村 正樹 | (57期) |
| 村 上 泰雄 | (58期) |
| 佐 々 木 孝 | (72期) |
| 宮 原 直枝 | (73期) |
| 金 子 佳憲 | (75期) |

2009.12.3 OPEN

平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会

開催おめでとうございます

総会の成功を心よりお祈り申し上げます



旭陵同窓会総会幹事一同(72期)

前田晋太郎(代表) 中村善昭 栢達彦 阿川知広 中村憲雄 安成(旧衣笠)孝義
田川聡 福光博 佐々木(旧井上)洋美 波瀬(旧篠田)幸子 山本陽子 川崎神奈
中野由香 松浦正徳(73期)

平成22年度

旭陵同窓会東京支部総会の盛会をお祈りします

56期医師有志一同

| | | | |
|------------|-----------|---------------|------------|
| 桃崎病院 | 下関市田中町 | 理事 | 桃崎 雅弘 |
| 西川医院 | 宇部市西岐波下片倉 | 副院長 | 西川(旧姓谷)浩子 |
| ももち東洋クリニック | 福岡市早良区百道浜 | 院長 | 木村 豪雄 |
| 松山赤十字病院 | 愛媛県松山市文京町 | 小児科 | 西崎(旧姓永田)真理 |
| 国立長崎医療センター | 長崎県大村市久原 | 形成外科医長 | 藤岡 正樹 |
| 下関市立中央病院 | 下関市向洋町 | 小児科部長 | 河野 祥二 |
| 福岡輝栄会病院 | 福岡市東区千早 | 副院長 | 藤光 和宏 |
| 広島大学病院 | 広島県広島市南区霞 | 障害者歯科 診療科長 | 岡田 貢 |



平成22年度

旭陵同窓会東京支部総会の開催

心よりお祝い申し上げます



山口銀行 旭陵同窓会有志一同

| | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 森脇 不知奈 (53期) | 柳田 清史 (59期) | 京原 健 (64期) |
| 奥田 薫 (55期) | 曾我 徳将 (59期) | 竹下 秀明 (64期) |
| 河村 和彦 (56期) | 伊勢崎 俊博 (59期) | 奥田 健一郎 (66期) |
| 原田 輝之 (56期) | 生木 宏和 (61期) | 上妻 憲彦 (66期) |
| 倉光 徹朗 (56期) | 宮内 智行 (63期) | 山本 和寛 (67期) |
| 吉村 猛 (56期) | 森田 茂樹 (63期) | 岡田 健吾 (71期) |
| 末藤 稔 (58期) | 有川 和義 (63期) | 中村 悠太 (78期) |

山口合同ガスグループ旭陵同窓会

総会の成功をお祈りいたします

山口合同ガス株式会社
西日本液化ガス株式会社
株式会社 新ホーム

海の向こうから
～声だけ、ただいま～

VOICE
LETTER



新田和子

(第42期生、1965年卒)

米国の田舎にて

私は米国ペンシルバニア州北東部のスプリングヴィルという片田舎に住み、その北に接するニューヨーク州のビンガムトンで病理医をしている。

住んでいる家は南北戦争直後に建てられたもので敷地は十萬坪である。毎晩シカの群れがあちこちに見られ、カヨリと

呼ばれる狼や熊もいる。土地の半分は林。リンゴ園があり、秋には落ちたリンゴをシカが食べに来る。林の中には川が流れ、家の裏の丘に登れば四方になだらかな丘が幾重にも連なり、あちこちにサイロが見える。

役所の記録によれば、私はこの家の四人目の持主だ。二番目の持主バーンズ家が約八十年間所有していて、土地の古い人々の間では今だにこの家は「バーンズさんち」で通っている。私の所有になって二十二年になる。

ビンガムトンは東欧系移民が多い古い町。勤務するのは



青池良輔

(第68期生、1991年卒)

旭が陵よりはじまる

思い起こせば、高校時代の3年間は僕にとって人生の多くを与えてくれました。

下関西高校在学中の僕は、決して規範となるような生徒ではありませんでしたが、そのような僕でも温かく導いて下さった先生方のご指導のもと、自由闊達な学生生活を送らせて頂きました。2年生の夏休みに見た映画がきっかけで、映像演出に関わる仕事に就きたいと思うようになり、当時の西高としてはあまり例のなかった芸術大学への推薦を頂き、進学、そしてその後カナダの映画製作会社に就職することになりました。数年前に、自分名義の会社を興し、映像やインターネットに関する仕事をしておりますが、思えば西高で将来の夢をもってから20年。紆余曲折もありながら、ぶれずにやってこれております。

住み始めてもう14年になる、ここカナダ・モントリオールは冬の気候こそ厳しいもののそれなりに都会で不便もなく、人も温かく過ごしやすい場所です。高校時代に英語をもっと勉強していれば…と悔やむこともありましたが、基本公用語はフランス語。西高の授業についていけなかった時に培われた胆力がものをいったのか、開き直ってわからないことを楽しむ生活をして

おります。海外で仕事をしていく上での少々の困難も、高校時代の友人達と語った将来の夢を裏切らないように頑張らねばと思うと、自分の中で大きな力となって背中を押してくれています。

その後インターネットを通じて日本の仕事にも多く関わるようになり、同窓の後輩と出会うこともありました。多くの同窓生の活躍を耳にするにつけ、さすがと驚き、また自分も下関西高校の名前に恥じないよう、きちんとした仕事を残していかなければと気持ちを引き締めております。

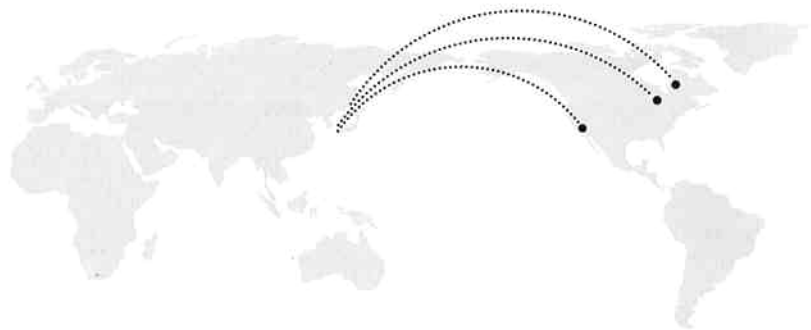
それだけの期間海外在住していれば、奥さんは青い目の…と期待されることもあります。結婚して7年になる妻は西高の同級生。在学中に得たものは本当に大きかったです。



WOWWOW
「藤子・F・不二雄のパラレルワールド」にて
ドラマ演出、アニメーション制作。



オリジナル作品「PERESTROIKA」
アヌシー等複数の
国際アニメーション映画祭に入選。
東宝よりDVD発売中。



カトリック系の病院で院内には礼拝堂もある。同僚は現在五人。米国では病理は臨床科の一つである。我々五人が会社を形成し、会社が病院と契約してその病理を引き受けている。他の科も殆どがその形をとっており、病院は言わばその集合体である。我々は組織診断したら直接その患者に診断料の請求をする。従って患者が手術を受けると、その人には外科医、麻酔科医、病理医そして病院自体からそれぞれの請求書がくる。病院は施設提供料を請求するのだ。オバマ大統領が押し進める医療保険制度の抜本的改革案が現在下院を通過しており、

前述した医療方式が今後変わっていく可能性は十分ある。

週末は捨て犬、捨て猫を保護収容する地元の慈善施設で毎土曜五時間程ボランティアをしている。二十匹いる犬を一匹ずつ運動させるのだ。犬と共に毎回十キロは走っていよう。もう五年半続けていて、一度も休んだことがない。

西高を出て早四十五年。お世話になった先生方は生きて居られるだろうか。女生徒が増えたこと、校舎が建て替えられたことを聞いた。いつか再び訪れてみたいが、あの校舎がもうないのは少し寂しい。



兼原 麻弥

(第71期生、1994年卒)

青春交響の桜



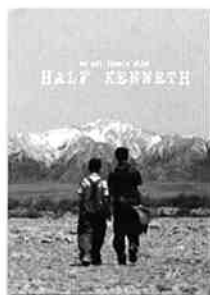
スーツケース一つで日本から脱出したのは13年前。始めは、全く聞き取れなくしゃべれない英語をなんとかしたい、という気持ちでサンフランシスコの語学学校に行く目的で4ヶ月間の滞在を予定してやってきました。けれども日本に帰ると、またアメリカに戻りたくなり、行ったり来たりを繰り返しているうちに、いつの間にか住みついていたという具合です。

渡米当時はドットコムブームと言われた頃で、シリコンバレーには仕事があふれていました。運良く私を拾って下さったある社長さんのおかげで、コンピュータプログラミングを独学で学び、5年程どっぷりコンピュータ業界で働きました。最後の会社で、3DやVisualEffectのソフトウェア製作に携わり、映像に対する興味が高まり、映画業界に転職しました。

その後、サンフランシスコ州立大学映画学科に編入し、学位(BA)を取得、フリーランスで、撮影や編集の仕事をした後、ハリウッドに位置するアメリカ映画協会大学院(afi.com)で、プロデューサ専攻の修士(MFA)を終了したのが、去年です。大学院では、ハリウッドで活躍するプロデューサ達から直接指導を受け、とても良い経験をさせてもらいました。

と、かなりマイペースで自由奔放な人生を送ってきましたが、海外生活は楽しい事だけではありません。日々の生活で、アジア人に対する偏見や、アメリカ人に追いつけない英語力には、常に葛藤があります。が、いつも楽観的な精神でここまでやってこれたのは、両親が緑と海に囲まれた下関で、育ててくれたからだと思っています。そして、下関で出会えたたくさんの友達是一生の宝ですね。人間誰しも、つらいことや悲しい事が重なり、ネガティブな気持ちになることがあるかと思いますが、そんな時、原点に戻りマイナスをプラスにする。そんなFollow Your Guts 精神は、「長州魂」からだと自負しています。これは、私の人生の基盤となっています。

それから、皆さんに質問ですが、西高での思い出はたくさんありますが、心のよりどころとなる風景はありますか？ 私は西高にいた頃、クラスメートや先生、吹奏楽部の仲間と、忠霊塔に満開の桜を見に行ったのですが、あの情景を思い出すと、いつも澄んだ気持ちになれるのは私だけでしょうか？



アメリカ映画協会大学院での、企画・プロデュース卒業作品。
短編映画「ハーフケネス」
1943年、日系強制収容所を舞台にした兄弟の物語。
世界25か所以上の映画祭にて上映中。
昨年の東京にて開かれたショートショート映画祭では、東京都知事賞、アジア部門最優秀賞受賞。

映画についての詳細は、
<http://twitter.com/mayakanehara>
または [facebook.com/AkamaFilms](https://www.facebook.com/AkamaFilms) まで

クラブ紹介

下関西高 野球部 副部長

野球部 早田庸紀 (54期)

いつの日か甲子園へ

下関西高野球部は現在3年生7名、2年生9名、1年生10名、女子マネージャー2名で活動しています。監督は13年間監督を務められた友澤邦昭先生が4年前に転勤され、その後は宇部高校から来られた宮本博先生がチームを率いています。部長は徳田充先生が8年前に転勤され、その後私こと早田(54期…56期の蔵重投手らの2学年上の主将です)が5年ほど勤め、私が山口県高野連常任理事になった関係で部長を大塚睦之先生と交代し、今年からは新たに田中大介先生(70期、彼も元西高野球部主将)が部長に就任されました。

今年のチームはまだ公式戦未勝利ですが毎日熱心に活動しています。昨年度のチームは近年にない強力打線で秋の大会では県ベスト8に入るなど大いに期待されたのですが夏の本番では力を発揮することができず初戦で敗れてしまいました。

近年では2004年の夏の大会で51年ぶりの県ベスト8に進出して盛り上がりましたが(その時の藤田翔平投手は九大のエースとして活躍し、今年から社会人野球の名門日本生命に入社し野球部で頑張っています)、その後は期待されながらも結果がついてきていません。

現在、5年前にOB会、同窓会などのご厚意で寄贈していただいたマイクロバスを利用して各地に練習試合に出かけることができ、ずいぶんと助かっています。他の部活も利用し今の学生は昔に比べ本当に恵まれています。この恵まれた環境を生かし、練習時間では隣の下商にはかないませんが、短い時間で効率のよい練習を心がけて今一度西高旋風を巻き起こし同窓生のみなさんにも喜んでいただきたいと思います。いつの日か甲子園のスタンドでみなさんとお会いすることができる日が来ることを楽しみにしています。



下関西高 三年三組

JRC

柳 美湖

青少年赤十字について



青少年赤十字は、通称JRC(Junior Red Cross)と呼ばれ、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の三つの実践目標と、「気づき・考え・実行する」という三つの態度目標を元に活動を行っています。

本校JRCの活動は、大きく分けて二つあります。一つ目は西高単独の活動で、もう一つは山口県西部地区の活動です。

前者では、主に募金活動と清掃活動を行っています。あしなが学生募金には毎年参加しています。

後者は、下関地区のJRCが協力して行う活動で、年に数回行われる

総会と、夏季休業中の合宿が中心的な活動です。総会では、講師の先生をお呼びしてボランティアの技能や国際親善に関わる講習を受けたり、実際に児童養護施設を訪問したりしています。現在本校が西部地区の会長校であり、私は役員(会計)として活動の立案・計画・準備に密接に関わらせていただいています。夏季休業中の合宿では、ボランティアについての様々な技能だけでなく、赤十字の成り立ちややり方についての知識や、ボランティアを行う際の心構えなどを学ぶことが出来ました。

また、私は、今年春季休業中に山梨県で行われた「青少年赤十字スタディー・センター」という青少年赤十字リーダー養成合宿に参加させていただきました。この合宿は毎年各都道府県から2名が選ばれて参加するものです。昨年度も西高生が山口県の代表の一人として参加しました。この合宿では、ハイレベルな全国の青少年赤十字の方と触れ合い、本当に多くの知識を得ました。また、五泊六日と短期間ではありましたが、全国の大切な友人達とめぐり合う事が出来ました。

青少年赤十字は、ただ学校生活を充実させるだけではなく人生をも充実させることが出来る最高の部活です。今後とも、青少年赤十字の活動に積極的に参加し、自分をより高めていきたいと思います。

下関西高 剣道部顧問

剣道部 長岡克巳

「夢」を追いかけて...

平成22年4月29日、ゴールデンウィークの初日。快晴の大阪市中央体育館で行われた「第58回全日本都道府県対抗剣道優勝大会」に、山口県チームの先鋒として、本校剣道部3年の西原慎太郎君が出場した。昨秋の県大会ベスト8の選手による予選会で、県内の強豪選手を撃破し、夢の大舞台をふむことになったのである。本試合では山梨県・甲府商業の選手と対戦し、全力で挑んだが惜しくも敗れ、チームも初戦敗退となった。

「文武両道」は、言うは易く行うは難し。「21世紀枠」のような制度も剣道にはなく、実力がそのまま明暗を分ける世界である。練習環境の面では県内の他校に比べ劣っている点は否めない。その中で快挙を果たした西原君や2年前に埼玉インターハイに出場した河野友哉君(現立命館大文学部2年)のような生徒に関わることができ、顧問としては無上の幸せである。西原君も河野君も、語弊を承知で言えば「剣道一筋」なのである。私事で恐縮だが、私も国語の教員であ

りながら、剣道のことを考える時間のほうが多いのは隠しようのない事実である。

生徒たちを取り巻く生活環境は決して安泰ではなく、勉強・進学の必要性は百も承知だ。テストや授業、補習に追われ、楽しみな部活の時間さえも奪われている生徒も少なくない。進学校における「現実」は厳しいが、生徒たちとともに全国大会出場の「夢」を追いかけて、無心で竹刀を振っている時間も貴重である と思いたい。困難に負けない生徒を育てたい、自分もそうありたい、そんな想いで生徒と関わりともに成長していくことができれば、部活動も捨てたもんじゃない...

最後に剣道部の現状を簡単にお伝えします。部員数はなかなか思うように増えず、少人数ながら高い目標を掲げ努力しているつもりです。最大の目標は今のところ団体での「インターハイ出場」。「文武両道」は永遠のテーマです!!

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



竹内国際特許事務所

国内及び海外に於ける特許、商標、意匠に関する手続き

代表者 竹内 裕 (第37期生)
弁理士

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目1番地 西脇ビル701号
TEL: 03(3264)7792 FAX: 03(3264)7834

新入部員 募集中

希望者は西高各部室まで(笑)

56期 部活・サークルOB一同

56期への連絡は 2010nishikou@gmail.com まで



バスケット部

ダンクシュートが出来なくなるまでは、われわれは現役です。

■山田浩幸・吉兼勝樹・池部恒充・山下徹・久保田益造



サッカー部

毎年1月2日、西高グラウンドでOB戦やってます。みんな集まれ!!

■垣本浩二・阿部勇雄・天野達郎・安東秀之・岡崎茂邦・河野祥二・碩昭博・徳田敬人・豊野正彰



野球部

100点取られても101点取って勝つ! そんな西高イズムを継承しています。

■筑本孝治・蔵重直樹・増永健一



軟式テニス部

図書館のローラーは、もう引けない。

■津畑昭浩・宮本和浩・平田雅彦



卓球部

ラリーはまだ続いています。スマッシュのタイミングは・・・今です!

■伊丹明彦・泊野和広・岡田貢



硬式テニス部

待ってろ! 修造!

■松井敬三・西村富士雄・山口正利



吹奏楽部

春コン楽しみにしています。卒業後の人生は不協和音です。いい音が出したーい。

■弘中克彦・植田(旧政本)静子・末富友義・廣田好史・西田浩義・藤本(旧中野)里美・福永茂



空手部

押 忍!

■江本知己・藤井信孝



陸上部

人生のゴールテープはまだまだ切っていません。(と思っています)

■平田匠・鈴木彰博・江熊康将



ハンドボール部

今ではすっかりリケメンのメジャースポーツ。先見の明がありました。

■永野幹雄・中谷幸一・宮原直樹・高橋徹・田村岳人・村田浩二・古賀博



バレー部

もう飛べませんが、強いアタックをすべて拾いまくるリベロの人生です。

■谷田雅敏・泉原雅人・廣瀬千春



J. R. C

西高の絆は地球を救う。

■林芳正・廣田好史・江本知己・森永俊彦・皆元利紹

旭陵ゴルフクラブ

第32回大会を開催



■泉原雅人 (第56期生、1979年卒)

さる5月15日(土)、旭陵ゴルフクラブの第32回大会が開催されました。

すがすがしい五月晴れの下、幹事の森宗幸夫さん(41期)のご尽力により名門船橋カントリー倶楽部で行われた今大会は、総勢42名が集い、宮崎勉さん(55期)が栄えある優勝カップを手に入れました。



旭陵ゴルフクラブの町田副会長から優勝カップを授与される優勝者の宮崎勉さん

旭陵ゴルフクラブは、上手い下手は関係なく、故中部銀次郎名誉会長(37期)のゴルフ哲学である“あるがままに”を継承し、ゴルフを楽しみながら同窓会の縦の親睦を深めることを会の趣旨としています。

今回の参加者についても、いつも岐阜から長駆馳せ参じていただいている27期の大先輩辛島義久さんから、来年度同窓会の幹事年に当たる57期の磯部弘志さん(皆さんご承知のとおりゴルフ会幹事を長年やっています)と常藤恭二さんまで、年齢差30歳という幅広い世代にわたっており、プレー後の

懇親会は、いつものように世代を超えた賑やかな交流の場となりました。

本年度同窓会の幹事年である56期からは4名参加。寄付や広告で総会開催に大いにご協力いただいている旭陵ゴルフクラブのメンバーの方々へのお礼と、本年度総会や旭陵フォーラムへのご案内をさせていただきました。

なお、昨年度同窓会の代表幹事であった長山恒正さん(55期)に次回からゴルフ会幹事として活躍していただくことが参加者全員により承認されました。

旭陵ゴルフクラブの目下の課題はもっと若い世代に参加いただくこと。ゴルフを通じて西高生のつながりを、次代を担う後輩にも引き継いでいきたい。メンバー一同、想いを強くしています。

これをお読みになった同窓若手ゴルファーの皆さん、是非ご参加下さい。ゴルフを始めたばかりの方でもご遠慮なく。You are always welcome !!

(なお、旭陵ゴルフクラブへの参加の希望やお問い合わせは事務局まで [michiyuna825058h@soleil.ocn.ne.jp])

祝

平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会

三井不動産旭陵会

下村秀樹 (55期) ・ 花井尚 (66期)



KEEP ON PLAYING!!



MY MUSIC CO., LTD.

代表取締役 寺西潔(56期)

www.mymusic.co.jp TEL: 03-3479-6056
FAX: 03-3479-6058

本をお譲り下さい
ふるほんや
書 簾 高 田 書 店

本 社 〒123-0842 東京都足立区栗原1-7-24
店 販 TEL 03-3884-4449 FAX 03-3884-5055

高 田 道 治 (40期)

一級建築士事務所



有限会社 建築舎202

代表取締役

津 畑 昭 浩 (56期)

一級建築士 宅地建物取扱主任者

〒750-1141 山口県下関市小月幸町11-26
Phone (083) 282-4655/FAX (083) 282-2626
携帯No. 090 3176 6072

Email tsubata@k-202.co.jp
URL http://www.k-202.co.jp/

翔洋法律事務所

弁 護 士 山 城 昌 巳
(35 回 生)

〒106-0032
東京都港区六本木 7-15-17
ユニ六本木ビル 10F
電話 (03) 3403-9041 FAX (03) 3403-1497



祝

平成 22 年度

旭陵同窓会東京支部総会



旭陵ゴルフクラブ
東京支部会

会 長 町 田 顯 (32 期)

会員募集! 事務局 磯部弘志 (57 期)
TEL 090-7416-9353

平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会 開催おめでとうございます

来年、平成23年は旭陵同窓会東京支部設立50周年を迎えます
更に栄えある同窓会を目指して、57期は動き出しました
来年の新企画にもどうぞご期待ください

来年は50周年

東京支部と同じ年に僕らは生まれました

**第57期生(昭和55年卒)「東行会」
関東地区一同**

代表幹事 磯部 弘志

副代表 吉永 旭

副代表 常藤 恭司

平成22年度

旭陵同窓会東京支部総会の開催を 心よりお祝い申し上げます

昨年は有難うございました
世代を超えて、皆さまとの強い絆を
確かめ合えたことを深く感謝いたします



平成21年度幹事 55期生 一同

祝


平成22年度 旭陵同窓会東京支部総会
総会の成功を祈る！

JFEグループ 旭陵同窓生有志

来島慎一 52期 河野正樹 55期 吉松秀格 56期
村上伸二 56期 西村公宏 60期 久保 啓 64期

祝

2010 年度旭陵同窓会東京支部総会
総会の成功を祈念いたします

 映画をもっとたっぷり 株式会社長府製作所 東京支店
46期 日野 正明
71期 吉田 竜介

東京で瓦そばが食べられます

てしごとや
ふくの鳥
TESHIGOTOYA FUKUNOTORI

四谷店

上野 真史 (69期)

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-21 三井資産ビルB1F(四谷駅徒歩1分)

TEL 03-3350-9490

<http://r.gnavi.co.jp/e129700/>

大切なご商談・ご会食に

ふく・いけす料理

大漁

向島本店 けんぼん 検番通り

墨田区向島2-10-4

電話03-3621-2929

信濃町店

新宿区信濃町34 JR信濃町ビル2F

電話03-3341-1129

ふく

瀬戸内料理

創業44年

割烹

小和田



東京都港区西新橋2-13-2

03-3501-0832(代)

<http://www.kappou-kowada.com/>

祝

E S S 同窓会も開催！

7月23日(金)19:00 ふくの鳥四谷店(同窓生の店)＜予定＞

申込先: 下村秀樹(55期) shimomura-h@bitcat.net



2009(平成21)年度活動報告

- 1 東京支部総会・懇親会の開催
2009(平成21)年7月25日(土) 東京プリンスホテル
テーマ: 絆 ～世代を超えて～
参加者: 310人
- 2 育みの会の開催
2009(平成21)年6月20日(土) 東京プリンスホテル
- 3 広報活動
東京支部会報「旭陵倶楽部第19号」発行

2010(平成22)年度活動計画

- 1 東京支部会員名簿の整備
- 2 広報活動
1) 東京支部会報「旭陵倶楽部第20号」発行
2) 支部ホームページの維持、更新協力
- 3 本部・支部・他校及び県庁、市役所の東京出先機関との交流・情報交換
- 4 常任委員会
2010(平成22)年2月20日(土) 東京プリンスホテル
平成21年度活動報告・会計報告、ウェブ委員会年次報告、東京支部規約改正、新役員選任、平成22年度活動計画・予算案承認
- 5 東京支部総会・懇親会並びに講演会「旭陵フォーラム」の企画・準備・開催

東京支部会員各位は、2010(平成22)年度総会で
下記役員のご承認をよろしくお願いいたします。

| | |
|------------------|------------------|
| 支 部 長 倉重英樹(38期生) | 常任委員 山本浩己(39期生) |
| 副支部長 吉川順一(42期生) | 高田道治(40期生) |
| 顧 問 安西 喬(19期生) | 竹内俊文(41期生) |
| 須磨幸蔵(28期生) | 土野耕二(43期生) |
| 西本 正(31期生) | 梅田晴正(44期生) |
| 吉井 溥(32期生) | 三宅晴久(45期生) |
| 和田一雄(33期生) | 栗明純生(46期生) |
| 白井哲三郎(34期生) | 西 真慶(47期生) |
| 木下陽三(35期生) | 上田隆実(48期生) |
| 常任委員 有田孝久(21期生) | 森脇敏和(49期生) |
| 池田治郷(21期生) | 門前孝志(50期生) |
| 江川 洋(24期生) | 有川起巳(51期生) |
| 湊 和夫(27期生) | 木村康則(52期生) |
| 西村明允(28期生) | 新村 篤(53期生) |
| 泉 淳治(32期生) | 戎崎俊一(54期生) |
| 山時 司(33期生) | 長山恒正(55期生) |
| 山城昌巳(35期生) | 会 計 澤田豊尚(54期生) |
| 中川眞幸(36期生) | 会計監査 山口 直(55期生) |
| 貞國哲雄(37期生) | 旭陵ゴルフ 磯部弘志(57期生) |
| 萩谷誠美(38期生) | 幹 事 |



旭陵同窓会

| | | |
|-----------|-------|-------|
| インフォメーション | 支部長挨拶 | 交友録 |
| 西高今昔 | 展示板 | 総会の記録 |
| 校歌 | 会報 | リンク |

KYOKURYO ALUMNI ASSOCIATION

インフォメーション Information

東京支部のホームページでお待ちしています。
www.kyokuryo-dosokai.com

平成15年11月より、東京支部のホームページを運用しています。
支部活動の広報ツール、また、支部会員相互の情報交流の
場として活用していただき、同窓会活動を楽しんでいただ
ければ幸いです。

【お願い】 メールマガジン配信のためのメールアドレスの新規登録を、
出来るだけ多くの会員の皆様をお願いいたします。

【WEB委員会一同】 顧問=森脇敏和、伊村雄士(49期) 委員長=篠原
清佳(50期) 委員=中村俊徳、砂岡康宏(54期)、長山恒正、吉村克己
(55期)、廣瀬千春、藤本孝浩(56期)

【内容】 インフォメーション、交友録、西高今昔、掲示板、会報、リンクなど。



Let's communicate with Music
株式会社
ウインズ・ユー

祝 総会!

代表取締役
植田 克治 (55期)



祝
平成22年度
旭陵同窓会 東京支部総会

盛会を祈っています!

幡生 D51の会 黒井村



下関ゆかい会

44期 関東在住者一同



まだまだ現役で張り切っています

旭陵同窓会を応援します。同期だけでなく、ご連絡をお待ちしております
(代表) 梅田 晴正(メール: haru@tims.jp Tel: 090-7816-9431)

2010(平成22)年度 旭陵同窓会東京支部総会・懇親会のご案内

開催日 2010(平成22)年7月24日(土) 午後4時～6時(開場 午後3時30分)
会場 東京プリンスホテル マグノリアホール
 東京都港区芝公園3-3-1 TEL: 03-3432-1111
 最寄駅: 都営地下鉄三田線御成門駅(A1)から徒歩1分
<http://www.princehotels.co.jp/tokyo/index.html>



懇親会のテーマ

みんな、おかえり。

～あの場所へ、あの日の続きへ～

西高同窓生には、帰っていきける時間があります。それは放課後の続き?それとも…。
 東京支部では、旧交を温めつつ、また明日へ踏み出すきっかけとなるような、和やかな総会・懇親会を目指します。下関名産ブースでは、思い出の味も楽しんでいただく予定です。

イベント(予定)



参加会費

- 一般会員/8,000円 ●同伴者/5,000円 ●31期以前の皆様(プラチナ会員)/3,000円
 - 20代会員/3,000円 ●大学生/1,000円
- 東京支部年会費: 2,000円(総会にご出席いただく方は、当日会場にて、参加費と一緒にお支払いください。)

当日のゲスト(予定)

- 恩師の皆様
 西田 昇先生(社会) 昭和43年4月～昭和58年3月
 篠川展裕先生(数学) 昭和47年4月～平成元年3月
 佐藤太助先生(体育) 昭和49年4月～昭和57年3月
- 来賓の皆様
 旭陵同窓会会長 木下 毅様(第37期生)
 旭陵同窓会幹事長 藤本正三様(第35期生)
 下関西高等学校校長 木村峰康様
 下関西高等学校校内幹事 小田逸子様(第51期生)

総会で下関のウマイが大集合!

郷土の銘酒飲み比べ

テイastingコーナーをご用意しました。

郷土の名品・下関ブランド

懐かしい味を販売コーナーでお求めください。



下関市東京事務所

TEL: 03-3261-4098
 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター12階

「下関ブランド」(下関自慢の飲食料品)を紹介します。「ふるさと納税」も募集中。1万円以上寄附された方には、「海響館」の年間フリーパスまたは「下関ブランドお楽しみセット」が進呈されます。

おいだませ山口館

TEL: 03-3231-1863
 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル1階

日本橋の丸善近くにあり、「御堀堂の生外郎」、「宇部蒲鉾の蒲さし」等購入できます。「ふるさと納税」も募集中。

編集後記



「50歳っていったら、10の位で四捨五入したら100歳ですよ!」などと、上司や先輩が五十路に差ししかかるたび、くだらない冗談で揶揄していた。その50歳に自分になってしまふ。しかもその年は、下関西高を卒業して関東で暮らしていると、とても忙しくなるらしい。

前兆は昨年の6月。「育みの会」などという胡散臭い会合に呼び出された。そこでぼんやりしていると、次期東京支部総会のスローガンを考えると。広報を担当しろと命じられる。できれば避けて通りたいことばかりが、わが身に降りかかる。なんか俺悪いことした?

でもまあ、腹をくくることにした。自分は56期なんだそうだ。へえ。パソコンに「旭陵同窓会」というワードを「き」で単語登録した。以来、それぞれの分担で忙しく立ち働いている各担当との頻繁な打ち合わせ会、および飲み会。本業は放り出し、会社のパソコンのメールボックスには同期とのやりとりばかり。西高時代には口をきいたこともなかった同窓生たちとも同じ目的に向かって力を合わせ、旧交を温めるといふより、いっそう、もしくは新たに親密になった。名簿作成に始まり、寄付・広告の募集、講演会の開催、会計、WEB、総会の企画…。そしていま、会報の編集も最後の詰めを迎えて振り返る。めまぐるしく過ぎたこの数か月は、もしかすると、いまひとつのスクールデイズだったのではないだろうか。だとすれば、これでめでたく卒業である。オーケー、来る総会が終わったら、18歳からやり直した。

原稿をお寄せいただいた方々、人を紹介していただいた方々はじめ、会報のためにご尽力いただいたすべての方々、さらに広告をいただいた数多くの方々に、この場を借りて深く感謝いたします。旭陵同窓会の絆の強さに、改めて感じ入った次第です。最後に、デザイナーの榎原みずきさん、出口麻紀子さんにも深く御礼申し上げます。また「ちりとり鍋」おごりますね(笑)

(田中記)

ご寄付のお願い

各界でご活躍の皆様のご厚意とお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

寄付 1口5,000円以上から
振込先 三菱東京UFJ銀行 日本橋支店 店番号: 020
 普通預金 口座番号: 0073294
 口座名義 旭陵同窓会東京支部 代表 山口正利

年会費振込のご案内

この年会費は、本会報の制作費および総会案内に関わる諸経費、郵送費等に使われます。同封の払込取扱票にて、お近くの金融機関でお払い込み下さいますよう、お願いいたします。

●年会費: 2,000円